



1. 会議の概要

今年度の NSPE 総会の概要と JSPE からの参加者は以下の通りである。

日時 : 2017 年 7 月 19 (水) ~ 23 日 (日)

場所 : 米国ジョージア州アトランタ市 マリオットマーキスホテル

参加者 : 約 600 名

JSPE 参加者: 理事 西久保東功、森山亮、学生会員 殿岡哲郎



オースティン前々会長 (左) ロバーツ新会長 (右)
ベアヘーレン前会長 (中)
CREDIT: JKLEIN PHOTOGRAPHY



HoD(全州総会) での JSPE 席
殿岡 (左) 西久保 (中) 森山 (右)



HoD の様子



森山理事の HoD 5 min スピーチ
CREDIT: JKLEIN PHOTOGRAPHY

2. アトランタ紹介

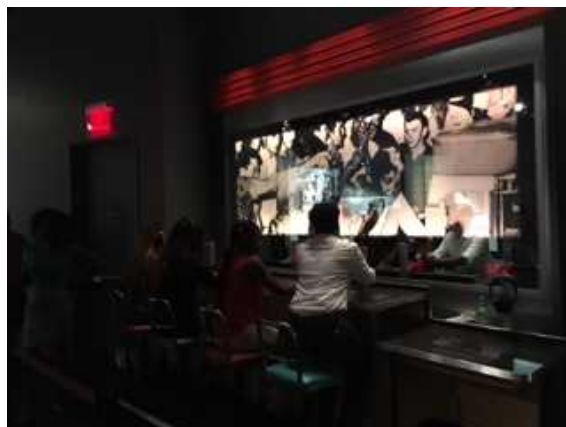
会期前に現地入りできたため、体調調整を兼ねて市街地を散策した。日本より気温は僅かに低く湿度も低い。治安についても夜間も含め過度な警戒をする必要がなかった、非常に生活しやすいと感じた。この一因には公民権運動があるようである。市内の公民権運動博物館には、1950 - 60 年代の資料が多く展示されており、キング牧師を始めとした多くの活動家の足跡を辿ることができる。なかでも目を引いたのが、当時のアフリカンアメリカンに対する言動を体感できるブースであり、写真に示すように目を閉じた状態で、ヘッドホンをつけるというもの。体験は、両手を台の上にセットしている間続き、ヘッドホンからは当時の罵声が、座席には椅子をけられる振動が与えられ、両手をセットしている間は徐々にエスカレートするというもの。実際に体験してみると、1 分程度で辛くなりリタイヤしてしまったが、同時に「人に対して優しくすることが如何に重要か」ということが身をもって感じる事ができた。日本での道徳教育や博物館での展示を振り返ってみると、ここまで強い印象に残る経験を得た記憶はない(逆説的に言えば効果を発揮していないともいえる)。今は独身で子供もいないが、子供がいたら一度は連れていきたいと感じた場所であった。

市内でもう一つ記憶に残ったのは、コカ・コーラ博物館である。企業の広告でしかないという前評判をすべて否定することはできなかったが、2 つ重要と感じたポイントがある。1 つ目は「北アメリカなどのように世界を6ブロックに分割し、そのエリア内でコカ・コーラ社が販売している代表的な飲み物を試飲できる」というもの。アフリカエリアでブドウ色のドリンクを飲むと子供用の飲み薬のような味がし、好んで飲もうとは思えなかった。ただし現地では好まれていることを考えると、味覚だけでもここまで多様性の幅があることを体感でき、この感覚は今のグローバル社会で戦っていくために必要だと思う。もう一つがコカ・コーラ社の標語「I cannot remember that day. I only remember the moment.」。何の変哲のない言葉のようにも思えるが、今をどのように精いっぱい(好き勝手に)生きていくかよく考えましょう、と私には感じられ、エンジニアとして何か残すためには妥協してはならないという戒めのようにも感じられた。

アトランタの街の将来像については、NSPE 総会の中で 2040 年には人口も仕事の数も今の 1.5 倍に増加するため、現在のインフラの最大化を進めるとともに、都市のどの部分にはどのよう



アトランタの美しい街並み



公民権運動博物館での体感ブース

な機能を持たせるといった再開発も進めていくとの講演があった。日本にいと人口減や高齢化の話ばかりになるが、その点ではアトランタは都市運営が上手くいっているように感じられる。あわせて機能性を重視したどういう街にしたいかという思いの入った都市開発というのも日本の行政に不足している視点であるように感じた。

3. NSPE 総会の概説

今回の NSPE は、以下の表に示すように昨年のダラス総会と同様なタイトなスケジュールであり、前半 2 日がセミナーとネットワーキング、最終日が全州総会 (House of Delegates, 以下 HoD) という構成であった。今回は総会参加を促すための多くの広報活動がなされており、その一つに何故 PECON に参加するのかという問いかけである。その答えは以下の 5 点で示されており、来年以降 JSPE から参加しようと検討されているか方や、興味がある方の参考にしてほしい。

- (1) Networking: Connect with others who take as much pride in the PE license and the engineering profession as you do!
- (2) Continuing education: Attending the 2017 Professional Engineers Conference is a quick way to learn about the latest trends in the profession and earn PDHs.
- (3) Leadership: You'll find numerous opportunities to build leadership skills that can help you in the workplace at the 2017 Professional Engineers Conference.
- (4) Be part of the profession: For 80 years NSPE has been dedicated solely to supporting licensed professional engineers. Come to Atlanta and be part of the profession's future.
- (5) Recharge: Break away from the office, connect with colleagues, and gather ideas that can help you in your job and career.

2017 年アトランタ総会の日程概要

Time	7/20	7/21	7/22
8:00	Opening session	General session	House of Delegates (HoD) Caucus
9:00			
10:00	Seminar - 1	Seminar - 5	HoD Assembly
11:00	Seminar - 2	Seminar - 6	
Noon	General session luncheon	NSPE celebrate engineering excellence luncheon	NSPE installation lunch
13:00	Order of Engineer		HoD Assembly
14:00	Seminar - 3	Seminar - 7	
15:00	Seminar - 4	Seminar - 8	
16:00		Closing session	
1700~	Networking reception	Aquarium tour	

セミナーについては、Focusing the Future の総会スローガンにあるように、将来の技術を見据えて PE はどうあるべきかというテーマについて、Opening/general/closing の一般セッションに加え、若手や新技術に関する education、マネジメントに関する leadership、制度や規格に関する government の 3 分野計 24 コマ開催された。今回は JSPE から 3 名参加したことから、各々の参加セミナーについての所感を以下にピックアップする。

アトランタ総会における講演の種類とタイトル

Sessions	Presentation titles
General	<ul style="list-style-type: none"> •Future of Engineering: Education & Beyond •Urban Connectivity: How Transportation Technologies are Changing Infrastructure •Luncheon Session •Future Trends: National Economic Outlook and Engineering Industry Forecast
Education	<ul style="list-style-type: none"> •Cyber security for Critical Infrastructures: Challenges and Solutions •The Future of the Professional Engineering Exam •Going Digital: Digital Signatures and Digital Document Delivery •Introduction to Disease Prevention Engineering •Discovery of water Health Problems in Flint Water Crisis and Associated Future Ethical Implications •Incorporating the Benefits of Reusable Wastewater in Policy Making •Greeting our infrastructure •Innovation in Nuclear Energy: Georgia Powers Vogtle 3 & 4 Project •Introduction to Microgrids for Commercial and Humanitarian Needs •Water Supply for the Future •Investigating Sinkholes •The Future of the Engineering in the Cognitive Computing Era •Renewable Energy •Self-Driving Cars: An Examination of Ethical Issues at the Micro and Macro Scale •Ethics and Engineering •Innovation in Infrastructure: South Carolina Ports Authority Projects
Governance	<ul style="list-style-type: none"> •Order of the Engineer Induction
Leadership	<ul style="list-style-type: none"> •How to Developing the Engineering Leader Inside of You •Growing Into A Strategic Role Within Your Firm •The Path to Greater Team Effectiveness and Performance •Engineering Education, Accreditation and Licensure: Exploring Current Developments, Trends, and Pressure •The Future of Professional Engineering •Engineers Managing Engineers •Rebuilding the NEPE Partnership: A Q&A on the Proposed Business Model



(1) Networking



(2) Continuing education



(3) Leadership



(4) Be part of the profession



(5) Recharge

総会参加を呼び掛ける NSPE のイメージ広告

4. 一般セッション概要

4-1. Opening/closing session

ベアヘーレン会長が務めた一年間の NSPE の動向をまとめた冊子 NSPE Year in Review 2016-17 が配られ、さらに動画で紹介された。動画の中ではネットワークの強化の一環として JSPE 総会への参加についても触れられており、感謝の意が述べられていた。この中で 2016-17 年の 4 つの活動方針とその結果概要を以下に紹介する。いずれエンジニアが今後の社会で果たすべき役割を効率的・効果的に担うための活動といえる。NSPE における PE 資格を保護する取り組みについては日本にいるとなかなか実感できないが、総会では NSPE と社会との折衝を感じることができ、社会への提言など JSPE の活動としても参考になるような取り組みが非常にたくさんあると感じた。ぜひ会員の方も NSPE のホームページから動画に目を通していただきたいと思う。



CREDIT: JKLEIN PHOTOGRAPHY

(<https://www.nspe.org/sites/default/files/resources/pdfs/2017Year-in-Review.pdf>)。

■NSPE Champions the PE License and promotes a constant focus on the public health, safety and welfare

様々な PE 資格を支持、保護するための活動を行った。例えば、PE 試験を受験するための教育要件を強化する立法推進(ウィスコンシン州 PE 協会と共同)。FE 試験免除に反対(ワイオミング州 PE 協会と共同)。また、エネルギー省に対して、電力グリッドの開発と評価のすべての段階において PE を関与させるべきであるなど、社会への提言活動も積極的に行った。

■NSPE gives voice to the ethical practice of engineering

エンジニアの倫理指針として、倫理審査会で 12 の新しい倫理事例を発表し、発表された事例の総数は 600 を超えた。

■NSPE helps professional engineers advance in their careers

PE の能力向上のために Online Learning や 15 Free Webinars といったツールを提供した。

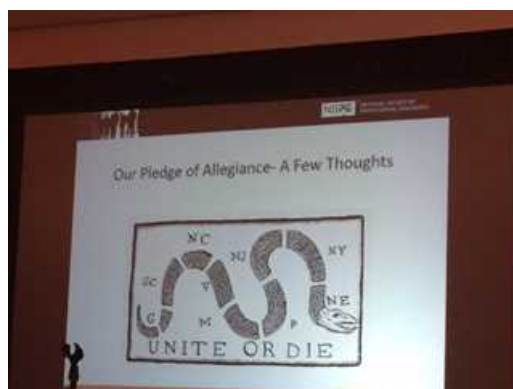
■NSPE connects like-minded professionals at all career stages

PE コミュニティを強く結びつけるため、3,700 人以上の参加者となっているオンラインコミュニティや Professional Engineers Day の実施など。

Closing session では、ベアヘーレン前会長からロバート新会長へと引継ぎが行われ、2017-18 年度のボードメンバー紹介がなされた。NSPE のボードメンバーは2年交代制で、今回はその半数が新規メンバーに改選される(右上記、NSPE2017-18 役員一同)。あわせて、NSPE は各州がそれぞれの部位を担当する動物にたとえ、どの州の協力がなかった場合でも存続することはできないと、全ての州が同じ方向を進む必要性を強調していた(右下記、unite を強調する蛇のイラスト)。JSPE としても、PE という資格を推進していくためには母体となる NSPE が健全に機能している必要がある。その視点に立った時、何が必要とされていて、何ができるのか、再度考える時期になっているのかもしれないと感じた。



CREDIT: JKLEIN PHOTOGRAPHY



4-2. Order of engineers and awards

NSPE 総会でのセレモニーは従来の Order of engineer および NSPE award の2種類であり、今回森山理事がエンジニアリングの授与された(写真参照)。昨年のダラス総会における参加報告に示したように、授与条件は ABET 認定の engineering program の修了 = NCEES の CE をパスすることである(詳細は <http://www.order-of-the-engineer.org> 参照のこと)。JSPE のメンバーにとって、総会に参加すれば授与式に参加できるが、費用と時間がかかることから軽々に参加できない人も多いと思う。Order of Engineer としては、セレモニー開催者を拡大する活動を進めていることから、JSPE 総会のイベントの一つとして実施するというのも一つの可能性として検討すべき内容といえる。



CREDIT: JKLEIN PHOTOGRAPHY

5. Education/ leadership/ government sessions についての各参加者の所感

5-1. 森山理事

水や電気などのインフラストラクチャーを中心に聴講し、全体的な印象としては日本でも良く耳にする Industry4.0 のような IT による産業革命で産業構造が変化しつつある中でどのように対応していくべきかといった議論が多かった。

■Cyber Security for Critical Infrastructures: Challenges and Solutions

水や電気などのインフラストラクチャーにおけるシステムの課題や対応策についてわかりやすく解説された。2007年に行われたサイバー攻撃がどのように電力グリッドの物理的コンポーネントを破壊する可能性があるかを実証した Aurora Generator Test や 2015年にウクライナの配電会社におけるコンピューターや SDACA (Supervisory Control And Data Acquisition) システムに対して第三者の不正侵入により変電所が停止した事故(事件?)など事例を交えて紹介された。このような状況は前述のエネルギー省に対する NSPE としての提言ともつながる重要な事項である。

■ Incorporating the benefits of reusable wastewater in policy making

テネシー州における再利用水の飲料利用の推進に関して

■ Water supply for the future

アトランタ近郊グイネット郡における再利用水の飲料利用とテキサス州ヘンフィル郡における水処理プラント・ポンプステーションの開発について



Dr. Mauricio Papa による Cyber Security に関する講演
CREDIT: JKLEIN PHOTOGRAPHY

5-2. 西久保理事

Government および leadership を中心に参加し、その中でも昨年の B+30 の影響からか PE に要求される教育水準の条件が大きく変化しようとしていると感じた。なお、今回は PDH の申請を web またはスマホのアプリから申請する形に統一され、さらにシステム自体も精練されてきたように感じた。次のセッションの開始や会場案内、リアルタイムでのツアーの集合アナウンス、また参加者間での連絡も可能となっており、NSPE としてどう総会を運営するかというツールの一つとして活用している感触を得た。

■ PE の教育水準に関する動向

まず FE/PE 試験の CBT (Computer Based Test) 化について NCEES から講演があった。完全に CBT へ移行した FE 試験は年間約 50,000 人の受験者に対して 2 種類 (LOFT & LFF) の CBT 試験を使い分けしているとのこと。LOFT は全受験者が異なる試験問題を回答する方式で、受験者に応じた問題の提供や、テストのセキュリティ面の強化が図れる。LFF は受験者の受ける試験問題は 3 種類のどれかという方式で、統計データの取得が可能といったメリットがある。PE 試験については、2018/01 に Chemical が移行し、次の Nuclear は 2018/10 に、以降年間 2-3 科

目を CBT に移行し、2023 年には完全移行する計画とのことであった。Open book (参考書持ち込み可) である PE 試験は CBT 化により持ち込み不可となるが、その際に code や standard の資料を現行の FE exam reference material のように PDF として提供することで対応する方針とのことである。

NCEES の CE 認定基準については、ABET がベースとなっているのは既知であるが、ABET の認定基準が州と工学分野によってことなるのは初耳であった。例えば、卒業に必要となる単位は 1 hr/semester を単位とすることは同じであるが、120 – 132 hr/semester で卒業できるのが 92 % であるのに対し、一部の学科は 150 hr/semester を要求されている。一方で ABET の認定に要求される単位数は、過去 15 年間で 2 -3 hr/semester 減少しており、今後のこの傾向は続くと言われていた。また、NCEES は工学教育に要求される水準の向上を受け、2020 年には B+30 に対応した model law を提出するとのことであった。これは CE の基準が B+30 ベース (単純に説明すると、学部の卒業単位数 + 30 単位が認定に必要) に変更されることを意味しており、JSPE から申請する際に注意すべき項目といえる。西久保から CBT への移行に対してローカルコミュニティが果たすべき役割は何かと問いかけを行ったところ、「最も重要なのは受験者が必要な情報にアクセスできることである」と回答を得た。JSPE として何ができるか、現在の JPEC の広報内容で受験者が困っている点はないかという視点を基に、どういう情報発信が必要か議論すべき点といえる。

生涯学習については、ジョージア工科大学の G. P. Peterson 氏 (右図) から MOOCS (Massive Open Online Courses) の紹介があり、ロボットのモバイル制御のコースは約 10 万人の受講者がおり、本年度のコンピュータサイエンス分野の master 授与者において、本コースの割合が 10 % に達したとのことであった。あわせて企業と学生の交流を活性化するために Technology square という企業 100 社 (200 社まで拡張予定) が入れる一角を大学周辺に作成し、予想以上に早い技術変化に対して対応していくとのことであった。JSPE としても CPD の機会としてセミナーを開催しているが、生涯学習という視点を加えると大学と協力するというのも選択肢として検討すべき項目であると感じた。



CREDIT: JKLEIN PHOTOGRAPHY

■Management に関するセミナーについて

仕事を回すうえでどのように考えれば、どのように指示することが効果的かといった PMP や PMBOK にあるような内容が多くあったなか、目を引いたのは 2017 年 3 月にジョージア州の高速道路で起きた火災による焼け落ちと復旧についてのプロジェクトである。18:30 に火災が発生し、僅か翌日の午前 3 時にはどのような形で復旧するかという初期プランを立てたことである。この中で、行政が工事会社に対して発注する契約の中に PMBOK という Cost + incentive fee の

実例が紹介されていた。内容は早く工事が完了すると予定期日からの差額日数によってインセンティブがもらえるというありふれた契約であったが、日本でまず目にしない契約形式の実例を知ることができたのは非常にためになった。

5-3. 殿岡会員

■How to Develop the Engineering Leader Inside of You

題名のとおりエンジニアとしてどのように所属先でリーダーシップを発揮していくかというセッションであった。リーダーとして自分の仕事に責任を持つことはもちろんのこと、同僚や部下の能力を見極めながら仕事を頼むことも必要。その際、まわりの人に尊敬の念を持ちながら接することが大切とのこと。また、ポジティブ思考も働いていく中で重要とのことであった。



■Growing into A Strategic Role Within Your Firm

こちらのセッションは、エンジニアリング関連の会社でコンサルティングをしている Belinda Hates 氏による、会社内でどのように自分の価値を高めていくかというセッションであった。自分が会社内でどのようなポジションか、まわりから何がもとめられているか、冷静に客観視し、計画的に問題を解決していくことが大切とのことであった。先のセッションと被る部分が多く、大切なことは共通しているのだと感じた。



■The Path to Greater Team Effectiveness and Performance

チームワークの重要性とどのようにそれを効率的に高めていくかというセッション。こちらでは、4人組のグループをつくり自己紹介から始まり、お互いの趣味や共通点を見つけ出し、それをみんなの前で発表していくものであった。やはりお互いの共通点が見つかると話が弾みやすく、いくつかのグループはその後一緒に食事に行くなど、お互いの親睦を深めあっていたようである。



■The Future of Engineering in the Cognitive Computing Era

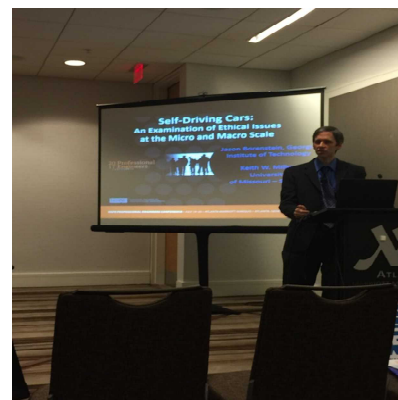
こちらではスマートフォンやコンピューターといった情報技術が教育や医療の変化に及ぼしている影響、取り組んでいる団体や会社 (IBM など) についての紹介であった。一例として、IBM が子供のプログラミング教育を支援している内容が紹介された。インターネットがなくてはならない現在、日本でも使う側ではなくそれを設計する側



になるよう、本格的な IT 教育が必要であると思われた。

■ Self-Driving cars: An examination of ethical issues at the micro and macro scale

自動運転における技術面での現状、およびそれにとまなう倫理と法に伴う問題を合わせたセッションであった。こちらも機械工学専攻として楽しみにしていたひとつである。一般道といった複雑な道路へどう対応していくのかという技術的な話から始まった。続いて、発進といった一部の操作を車のシステムが、それ以外を運転者が行うレベル0から、すべての操作をシステムが行うレベル4の5段階の自動運転の定義があり、倫理と法的な視点からこのレベル4をメインに話が進められた。具体的には、



車が他の車と衝突しそうな場合、回避行動をどのようにとるのか、回避行動をとった先に歩行者がいた場合、どうするのか、その際の自己責任は誰なのかという内容であった。現在では、危険度と事故の可能性をもとにリスクスコアを基準とするとのことであった。私見を言えば、旅客機や一部鉄道ではすでにほぼ自動運転であるので、技術面はクリアすると思われる。よって責任の所在は誰なのかという方向で話が落ち着くのではないかとと思われる。メーカーも一台数百万の車を売って、遺族から数千万の損害賠償が請求されるのであれば売る気にはならない。また行政も一般的に責任を取りたくない組織なので、運転者の責任とならない限り最終的にこの話は進まないのではないかと考える。ただこの場合、運転者はたえずハンドルをにぎり、ブレーキの用意もしなくてははいけないので、これを自動運転と呼べるかは疑問である。

6. 水族館ツアー

ネットワーキングの一環としてジョージア水族館の夜間ツアーが開催され、西久保と森山の両名が参加した。海のないジョージア州だからこそ世界最大級の水族館を、ということで寄贈された施設であり、ジンベイザメやベルーガなどの巨大な種類から熱帯魚までの広範な種類を網羅している。この中でディナーを兼ねたネットワーキングが行われ、多くの参加者と交流を深めた。



マンタの遊泳を鑑賞
CREDIT: JKLEIN PHOTOGRAPHY



水族館内での夕食の様子
CREDIT: JKLEIN PHOTOGRAPHY

7. HoD topics

最終日の House of Delegates (以下 HoD) については、事前の意見交換会である Caucus と本会議である Assembly の 2 本立てで構成されている。

Caucus については、朝食後、ラウンドテーブル形式で NSPE が力を入れていく 4 分野 (ライセンス価値の最大化、ethical guide、PE としての能力向上、コミュニティの一体化) について各州がどのような考えを持っているのか議論を行った。その中で西久保から、コミュニティの一体化について JSPE と国内 JABEE との協業を例に挙げ、NSPE と共に進んでいることを紹介した。Ethical guide では order of engineer (OoE) が議題に挙げられた。同じテーブルのコーディネーター (GA 州ボードの一員) によると、OoE のセレモニーは本来 (宗教の儀式が期限になっているので) 秘匿するものであり、現状のように open の形で行うのはおかしいという意見もあった。一方で OoE を開催している NSPE としては PE の浸透や価値の最大化のためには譲れず、むしろもっと活発に行いたいとのこと。JSPE としてどちらのスタンスに立つか、これも検討すべき内容といえる。

本会議である Assembly については、ペンシルベニアとデラウェア州が欠席。デラウェア州については 2 年連続欠席であり、JSPE からの PE 登録者が多いことから動向を注意する必要があると感じた。役員選挙については、2018 ~ 19 年の会長に Michael Aitken 氏 (右写真)、2019~20 年度の副会長にミネソタ州の David Martini 氏、財務係にはカンザス州の Brian Armstrong 氏がノミネートされ、満場一致で承認された。



CREDIT: JKLEIN PHOTOGRAPHY

続けて technical societies のパネル講演が行われ、IEEE 代表の Karen Pedersen 氏 (右写真中央)、ASCE 常務取締役の Tom Smith 氏 (同右)、そして ASHRAE の副代表 Jeff Littleton 氏 (同左)、三名による紹介と質疑応答が行われた。昨年までは質疑応答がなかったことから、NSPE としても国内団体との連携を強化していく意図があると思われる。



CREDIT: JKLEIN PHOTOGRAPHY

インターナショナルゲストスピーカとしては、カナダの技術士会の会長 Russ Kinghorn 氏、JSPE からは森山理事、最後に韓国技術士会の会長 Jaekwon Kim 氏からそれぞれスピーチが行われた。なお、韓国技術士会については、紹介後、撤回されたのかコンタクトが取れなかったため、帰国後に別途連絡を取る予定である。以下に森山理事のスピーチ全文を掲載する。

-JSPE speech 2017 @ Atlanta-

Hello everyone. Thank you Tom-san, Kodi-san, and Georgia society for giving me this

opportunity. And congratulations for holding PE Conference in Atlanta which is the stage of the "Gone with the wind". JSPE is a non-profit and non-governmental organization of approximately 350 Japanese engineers who are licensed or are seeking to be licensed in US. Since the US PE exam was made open to Japanese engineers back in 1996 at Yokosuka base, estimated around thousand engineers have been registered. JSPE is tied to NSPE with the affiliation agreement signed in August 2001. On the beginning of last month, we were honored to have Ms. Kodi in our 17th annual meeting in Tokyo. During her stay in Tokyo, we also invited her to a joint meeting with JABEE, a Japanese counterpart of ABET, and we had fruitful discussions. Thank you Ms. Kodi for sharing your time in very busy month. Last year, JSPE president Mr. Kawamura told at Dallas that PE licensure system well balances 4Es, those are the exam, education, experience, and ethics. JSPE's activity also focuses on correcting latest information of exam, continuous education, mentoring of young engineers, and promoting ethics. We have announced JSPE's action policy in 2017 as "Cross and Bridge Technical Discipline". Thus, we, JSPE want to support Japanese PE holder cross and bridge not only technical but also country-to-country relations. We have learned much from NSPE and NCEES in the past. We hope to give back our knowledge and experience to you, and thus strengthen the partnership with you.



CREDIT: JKLEIN PHOTOGRAPHY

本年度の Assembly における議案は NSPE の会員システムに関する改定である。NSPE は各州が行っていたマーケティングなどの一部の活動がオーバーラップしていたことを鑑み、NSPE からの協力レベルを 4 段階に定義し (レベルごとに会員が支払った会費のうち NSPE の取り分が変化する)、そのレベルに応じたサービスを提供する方針に変更するというもの。この新システムに移行するかどうかについて議決が行われ、オレゴン、オクラホマ、モンタナ、ミシシッピ、フロリダ州の反対があったものの賛成多数で可決された。これらの州は 10 月までは賛否を変更可能だが、反対のままだと NSPE の新会員システムから外れることになるため、JSPE の上記州に登録者は注意が必要といえる。なお、新会員システムへ移行することを決めた州も、NSPE との協力レベルにより州が会員に提供するサービスの範囲が変わる。NSPE と州の両方の会員であれば受けられるサービスに変化は生じないが、JSPE の PE 会員は NSPE 会員でない者が大多数のため、一部のサービスを受けられなくなる可能性がある。故に各州の協力段階とどのようなサービスの違いが生じるか注意が必要といえる。合わせてライセンスの更新料も変化する可能性が高いので状況推移を把握しなければならないと感じた。

8. 所感と教訓

<森山理事>

私にとって初めての PECON 参加であったが、NSPE および各州協会の人々の健康、安全、福祉に奉仕する活動を直に感じる非常に良い機会であった。

また、初めての参加にも関わらず、運営者、参加者などすべての方々から温かく迎え入れていただいた。これは偏に JSPE の活動の一つである NSPE 総会への参加や NSPE 会長の受け入れなどを継続的に行ってきた重要な成果でもあり、歴代の参加メンバーおよび来日いただいた NSPE 会長に感謝したいと思った。

さらに、現在 NSPE の総会が PECON という名称・形式に変わったこともあるため、発表形式で JSPE からの情報をインプットしていくことも可能ではないかと思われる。JSPE の存在感を高め、NSPE にこれまで学んだ経験を使って恩返しする意味でも、JSPE の活動や日本のエンジニアリングに関する状況などを PECON にインプットできると良いと感じた。

<西久保理事>

直近 2 年間のシアトル、ダラス総会に続き、今回のアトランタ総会で 3 回目の参加となりました。総会参加で得られたものについては、これまでと同じくネットワーク強化、知識の裾野の拡張、また自身のモチベーションの向上の 3 点ですが、今回は理事として参加したことで前回までの会員としての参加とは異なる気付きが得られました。

ネットワークの強化については、過去 2 回の総会で知り合った線のネットワークとは別に、理事として会員時代には感じなかった別のネットワークが掲載されたような感覚を持ちました。JSPE が NSPE にどう貢献していくかという議論を進める上でも、NSPE 側とのコンタクトを強化することは今後も必要と考えます。その一環として、第 2 回 Professional Engineers Day (8 月の第一水曜日) が 8/2 に開催されました。JSPE もこれにちなんで JSPE Day に特定の広報活動を設定するのも一考の余地があると思います。

知識・経験・技術の裾野の拡張については、自動運転などの昨今注目されている技術を最前線であるアメリカがどのように考えているかを知れたのは十分な価値があったと思います。特に今年は自身の専門分野に直結する ASHRAE の代表が HoD に参加していたことから、仕事上のコネクションという視点からも有益な体験だったと感じています。

モチベーションの向上については、海外のエンジニアとのやりとりを通じて彼らの目線の高さを知り、エンジニアのスタンダードに対して自分自身がどの位置にいるのかということを再確認しました。昨年の総会から 1 年間にわたり様々な活動を進めてきましたが、まだまだ不足している点があると感じます。一方で、逆に相手ができる内容が私ができていることもあり、今後、エンジニアとしてのキャリアをどの方向に伸ばしていくかという参考にもなりました。

JSPE からの参加人数については、今回は 3 名でしたがもっと多くの人が係わってほしいと思う一方で、HoD で各州には 1 席しか用意されていない中で 3 席占有していたのはちょっと心苦し



く思ったため複雑です(人数が多い場合は一般参加者として扱ってもらなどの配慮が必要か)。また、今回理事かつ総会経験者として二人をリードする関係上、どうしても日本人で固まらざるを得なかった点も課題といえます。せっかくのネットワークを作る機会を減らしかねないわけです。また、NSPE への参加者の中には家族同伴の方も多く、JSPE の参加者も家族を伴いやすい環境や制度にしていく必要があるとも感じました(奥さんが一番のステークホルダーということもよく聞きますし、仕事を休んで、家のことをほってアメリカに一人行くとなると。。)

最後に、今回も NSPE 総会への参加にあたり JSPE から補助を頂いておりますが、元々は JSPE の方々の会費であり、このような機会を与えて頂いたことに対してこの場をお借りして深く感謝いたします。

<殿岡会員>

個人的な意見として、HoD の会場において我々に3席も用意していただいたのはありがたいが、ほかの参加者のように州を代表して NSPE に参加しているわけではないので、特に会議で発言する機会も権利もなく、少し気が引けてしまった。例年のゲストスピーチをする人以外は後ろの傍聴席でもよいのではないかと感じた。また、NSPE を介さずとも JSPE がカナダや韓国といったほかの国の組織と交流を深めてもいいのではないと考えた。

今回初めての参加であったが、参加して正解だったといえる。現在エンジニアリングを勉強している学生として勉強へのモチベーションや、将来のエンジニアとしての理想のモデル像が固まった。また、ネットワークブレイクで現役のエンジニアのかたとも交流を深めることができ、さまざまな意見交換ができたことも収穫のひとつであった。ぜひとも JSPE 会員の皆様には時間の都合が合えば参加することをお勧めしたい。何かしら得られる有意義な数日間になると思われる。また、アメリカに滞在している JSPE 会員として現地報告などといった、何かしら JSPE に貢献できることがあるのではないと感じた。最後に旅費と宿泊代の補助金を提供してくださった JSPE の皆様、4日間一緒に同行していただいた森山西久保両氏、および無料でお招きしてくださった NSPE とジョージア州支部の方々にお礼を申しあげたい。ありがとうございました。

その他



レセプションにおける新会長ロバート氏と森山・西久保



HoDにおける JSPE 参加者の紹介
CREDIT: JKLEIN PHOTOGRAPHY